

「夢」を語る学生に!



三重大学人文学部・助教授
石坂 督規 Ishizaka, Tokunori
[URL] <http://www010.uup.so-net.ne.jp/ishizaka/>

「内定」は
ゴールではありません。
自立への第一歩です。

◎先の見えない時代

正社員、終身雇用、年功序列賃金…ちょっと前までは、大卒者に当たり前のようを用意されていた「幸せへのパスポート」が、今は入手困難な「プラチナチケット」になりつつあります。大卒の2割が無業者に、そして3割が3年以内に離職する(*1)といわれるこの時代、大学を出たからといって、これから先の人生が安泰であるという保障はまったくありません。

◎三重大大学のキャリア教育

大卒フリーター、勝ち組・負け組、格差社会…そんなことばが一人歩きする昨今、学生の皆さんは、「大学を卒業したら何になりたいか?」そして「そのなりたいたいものになるために、今何をすべきか?」ということについて、真剣に考えてみたことがあるでしょうか。三重大大学ではキャリア教育として、先の見えないこの「リスク社会」の下で、自らを見つめ直し、将来の生活設計を行うことをサポートしています。

(*1) 早期離職者

中卒者の7割、高卒者の5割、大卒者の3割が3年以内に離職している。こうした新卒の就職者が早期に離職する現象を俗に「七五三現象」という。

◎若年無業者のすがた

私の研究室では、三重県と共同で、若年無業者、俗に「ニート」(*2)とよばれる若者たちの調査を行っています。これら仕事をしていない若者の大半は、働きたくても企業の採用要件を満たさない、あるいは希望の職種への就職をめざすために「自分磨き」をしている人たちの集まりなのですが、最近では「何をしようのかわからない」「とくにやりたい仕事がない」「働きたくないなあ」…そんな若者たちもにわかには増えつつあります。

(*2) ニート

Not in Employment, Education or Trainingの略で、「職に就いていず、学校機関に所属もして、そして就労に向けた具体的な活動をしていない」若者をさす。その定義や調査方法によって違いはあるが、全国で60万人以上、三重県に約9,000人いると推計されている。

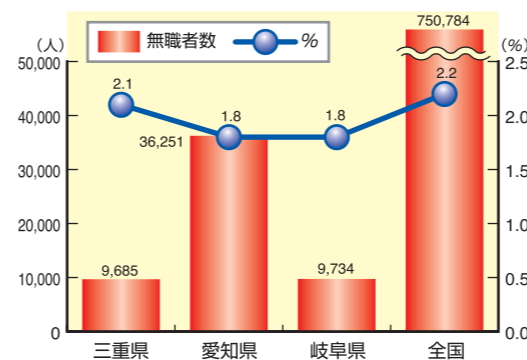
◎自由の代償

確かに、今は「働かなくても何とかなる」時代です。時には、「回り道」も必要でしょう。しかし、正社員とフリーターとの生涯獲得賃金の差が「2億円」などという調査報告を目にすると、「働かない(正社員にならない)自由」の代償は、意外に大きいともいえるのではないのでしょうか。

'06三重大大学のキャリア支援プログラム

三重大大学では、2006年度の共通教育科目として、「キャリア形成概論。(働くということ)」「キャリア形成特論。(自分を知らる)」「共通セミナーA(インターンシップ)」などが開講されています。また、就職支援やマナーセミナーなど多数のキャリア支援講座の開講を予定しています。

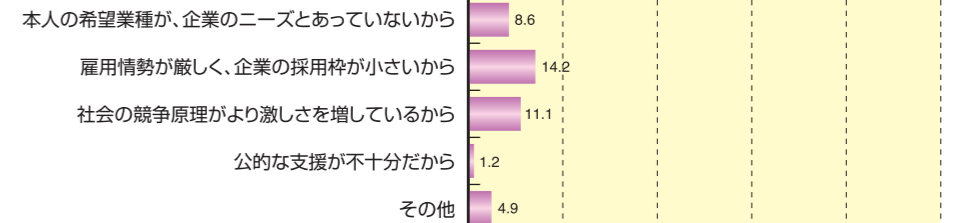
東海地域における若年無業者数とその割合 (2006年)



出典/三重県「若年無業者支援に関する実態調査報告書」(2006年)
(データ元は総務省統計局「国勢調査」)

三重県の若年無業者数は、9,000人程度と推計される。また、その割合は、愛知県、岐阜県の1.8%を上回る2.1%。全国平均並みではあるが、東海地域では高い数値を示している。

企業の採用担当者が考える若年無業者の増加要因 (2006年)



出典/三重県「若年無業者支援に関する実態調査報告書」(2006年)

本人、もしくは家庭にその原因を求める企業が、圧倒的多数を占める。「本人の甘え」「しつけの欠如」などをあげる例も多く見られ、本人の性格、家庭での生活様式、就業観の変化などが若年者の無業化を引き起こすとする「本人原因説」の立場をとる企業が多く見られるのが特徴といえる。